

情報公開用文書

「生体情報を用いた急変イベント予測モデルの作成および
その有用性を検討する多施設後ろ向き研究」へのご協力をお願い

1, 研究(調査)の目的と概略

救急外来や集中治療室で治療を受ける患者さんは、その過程でしばしば状態が急変します。これまでの報告から、急変に対する初期対応の遅れは、患者さんの転帰に悪影響を及ぼすことが明らかとなっています。しかしながら、このような急変を事前に予測する明確な指標はなく、医療者の経験や知識に基づく判断に依存しています。そのため、急変を予測する質の高い予測モデルの構築は急性期診療において喫緊の課題です。

本研究の目的は、患者情報および生体情報を用いて急変イベント発生を予測するモデルを作成し、単独の生体情報による急変イベント予測能と比較することで、予測モデルが既存の指標よりも高い精度で急変イベントを予測できるかどうかを明らかにすることです。

2, 研究(調査)の方法

下記の患者様に関して、年齢、性別、臨床経過に関する情報を収集します。氏名や住所は収集いたしません。匿名化された後、日本国内のクラウド上のデータセンターへ情報提供されます。

3, 研究(調査)の参加施設

本研究は関西医科大学が責任者となり、全国から当院を含む約30施設が参加しています。

4, 調査期間

研究機関の長の承認日～2032年3月31日

5, 調査の対象となる患者様

2010年4月1日から2031年3月31日までの間に当院集中治療室(ICU)に入院された患者様

6, この研究への協力は任意です

本研究は、患者様の診療記録から得られた情報のみを使用する「観察研究」と呼ばれるもので、患者様に新たな診療や検査を強いるものではありません。調査結果は、個人が特定できないように匿名化して管理し、個人情報を保護します。

データのご使用をお断りになる場合は、直ちに情報の利用を停止いたしますので、ご遠慮なくお申し出ください。何も診療に不利益は生じません。

7, お問い合わせ先

当院研究責任者 集中治療科 部長 中瀧恵実子

お問い合わせ先 088-631-7151 (代表)